

仙台市博物館協議会会議録

1. 会議の年月日 令和7年11月25日(火)

2. 開会及び閉会の時刻 午後3時00分から午後4時35分まで

3. 出席委員の氏名(五十音順・敬称略)

籠橋俊光、鹿又喜隆、佐治ゆかり、佐藤琴、佐藤淑子、高橋たくみ、伊達泰宗、長岡龍作、七海雅人、若生彩

4. 説明者の職及び氏名

館長＝渡邊忍、副館長＝樋口智之、庶務係長＝久慈裕子、学芸企画室長＝酒井昌一郎、
学芸普及室長＝水野沙織、指導主事＝永山達郎、学芸企画室主任＝寺澤慎吾、学芸企画室主事＝黒田風花、
学芸企画室総括主任・記録＝佐々木徹

5. 議題並びに議事の要旨

(1) 会議録署名委員の選任

会長と佐藤琴委員とする。

(2) 報告事項

① 令和7年度の観覧者数について(庶務係長報告)

「資料1」のとおり。また、9月2日より観覧料の支払いにキャッシュレス決済を、11月11日よりチケットプリンターを導入した。

② 特別展「伊達を継ぐもの―仙台藩を築立った殿様たち」の結果報告について(学芸企画室長報告)

「資料2」のとおり。

③ 特別展「徳川十五代将軍展～国宝・久能山東照宮の名宝～」の結果報告について(学芸企画室長報告)

「資料3」のとおり。

[委員からの意見]

外国人がどれくらい来ているのかも含めて、観覧者数と収支のバランスが知りたい。その点について慎重に調査・研究するべきではないか。また、観覧者数が非常に多かった「徳川十五代将軍展」の最終日に、なぜ開館時間を延長しなかったのか。最近の博物館は、広報面など、だいぶよくなってきていると感じるが、まだまだ見直すべきところもあると思う。

[事務局からの回答]

収支および外国人の観覧者数ともに、できる限り次回から報告したい。「徳川十五代将軍展」では、場合によっては閉館時間を遅らせることも必要かと考えていたが、実際のところ最終日は閉館時間に近づくとつれて観覧者数が落ち着いてきたと判断できたため行わなかった。開館時間の延長については、観覧者数のほかにも必要経費との兼ね合いなど、状況に応じて適宜判断することになるが、あらかじめ検討しておく必要はあるかと思う。

〔委員からの意見〕

どのような団体が来館しているか。

〔事務局からの回答〕

学校団体のほか、町内会やクルーズ船の乗客などが来館されている。

〔委員からの意見〕

観覧者数について、一般や大学・高校・中学校・小学校など、もっと細かく分けて示してもらえないだろうか。どういった方々が来ているのか、その種別や傾向が知りたい。というのは、他館に比べて高校生・大学生の特別展料金が高い印象があり、歴史系のテーマは若い世代が足を向けにくい傾向にあるなかで、そういった人たちをどうやったら取り込めるかについて、料金面でも考える必要はないだろうか。あるいは、キャンパスメンバーズ制度を設けているのか。

〔事務局からの回答〕

チケットの種別ごとに統計は取っているので、次回から情報提供はできる。また、当館ではキャンパスメンバーズ制度を導入しており、常設展であれば無料、特別展であれば半額としている。

〔委員からの意見〕

仙台市の場合「どこでもパスポート」があり、小・中学生は特別展でも無料で観覧できる。常設展料金については、仙台市博物館は全国平均くらいではないか、という印象がある。特別展は、コロナ禍明けから全国的に高くなっている傾向にあり、首都圏はランニングコストの上昇が要因かと思われるが軒並み 2,000 円以上である。そのため、そこまで極端に料金が高い印象はない。

〔委員からの意見〕

特別展「伊達を継ぐもの」で開催した謎解きウォーク・一日まるっと博物館フェスは、子供たちにも上手に対応しており、参加者も楽しんでいた印象がある。初めての試みとして、現場サイドとしてはどういった感想をお持ちか。小学校とも連携して、ぜひ持続的にやってほしい。

〔事務局からの回答〕

未就学児も含めて、若い世代の方々に多く参加してもらった印象がある。準備が行き届かなかった面も少なからずあり、今後についても館として体制を築いて開催できるとよいと思う。

〔委員からの意見〕

個人としての意見だが、「徳川十五代将軍展」の開会式後のギャラリートークでは、久能山東照宮博物館の学芸員が徳川家康に敬称を付けて「家康公」と呼んでいたことが非常に心地よかった。仙台市博物館は、学術的な観点から「公」を付けていないと承知しているが、詳しい事情を知らない県外から来館する方への心証など、場合によっては相手への配慮として敬称を付けるべきではないか。文章では付けられないが、口頭では付けるなど。

〔委員からの意見〕

特別展の印象として、「徳川十五代将軍展」では、アンケートにもあるとおり展示内容が非常に充実しており、来館者の関心の高さにつながったと感じる。「伊達を継ぐもの」は、本家・分家の大名論を取り扱っており、武家社会の問題として日本近世史での重要なテーマでもあったため、内容的に大変よかった。

(3) 協議事項

①特別展「もしも猫展(仮)」について(学芸企画室主事説明)

「資料4」のとおり。

〔委員からの意見〕

展示が巡回する名古屋・京都・新潟・広島というのはおよそ仙台と同規模の都市であり、他都市の展示にはどういった人たちが来て収支的にはどうなっているのか、仙台と比較して調査し、メリットがあるかないかなどを検討してみてもどうか。他都市の状況についてデータ収集すると仙台でも使えるのではないかと。

〔事務局からの回答〕

各都市で必要経費には差があり、巡回展といえども同じことを繰り返しては多くの来館者を望めないと考えられるため、当館なりのイベントや展示の工夫も行って、より仙台らしく実施できればと思う。

〔委員からの意見〕

前回、令和元年に開催した「いつだって猫展」では、観覧者数はどれくらいであったか。

〔事務局からの回答〕

46日間で33,512人であった。開催日数や開催時期も前回とほぼ同じである。

〔委員からの意見〕

仙台展の独自の展示としては何を考えているのか。また、広報上の方針などはあるか。

〔事務局からの回答〕

関連する館蔵資料を常設展で展示することは考えており、工作イベントでも仙台という土地柄を活かして工夫できないかと計画しているところである。広報については、ミヤギテレビが主催者として実行委員会に入ることになるので、がっちりタッグを組んでテレビ放送も使いながら広報したいと考えている。

〔委員からの意見〕

今年度も積極的に活用されているが、Xは費用もかからず、イベントに関する発信にも有効なので、ぜひ積極的に活用していただきたい。

〔事務局からの回答〕

ご意見ありがとうございます。

〔委員からの意見〕

体験イベントを行うとあるが、どういった内容となる予定なのか。

〔事務局からの回答〕

巡回される内容となるが、会場内でクイズに答えながら猫のお面のカードを工作するイベントを予定している。また、展示される江戸のあそび絵をプリントし、組み立てたものに触れてもらう体験コーナーなども考えている。

〔委員からの意見〕

5月の連休をはさむ時期の開催で、親子連れの来館も多く見込めることを考えると、親子連れの方々にも内容的にわかりやすい特別展になるような印象を持った。

②企画展「伊達政宗の挑戦状(仮)」(学芸企画室総括主任説明)

「資料5」のとおり。

〔委員からの意見〕

楽しめる内容だとは思いますが、遊びの要素が強すぎるのではないかと。たとえば、クイズはどのような内容にするのか。ただ通過して物もらえればよいように聞こえるが、なぜこれを博物館で行う必要があるのだろうか。また、より親しみやすい企画にしようとするならば、タイトルや趣旨で「伊達政宗公」と呼ぶべきではないか。親しみを込めるからこそ「公」を付けてもらえたらと思う。

〔事務局からの回答〕

クイズの内容については、まだ十分に練られておらず、現時点では具体的にお伝えできないが、展示物をもとに伊達政宗の活動・活躍やどういった人物であったかがわかるような問題とし、楽しみながら学べる内容にしていきたいと考えている。「公」を付けるかどうかについては、展示担当者としては学術的なスタンスはなるべく崩さず、付けない方向で考えている。

〔委員からの意見〕

展覧会の内容をここまで崩したもとのしているのだから、逆にそこまでこだわる必要はないのではないかと。

〔委員からの意見〕

これほどまでに仕掛けを楽しんでもらおうとする試みを、かなり意欲的にやろうとしているのが伝わってくるので、これはいろいろな意味で興味深いと感じるが、カードのようなものを作る予定はあるか。会場でオリエンテーリングのように問題を一つ一つ解きながらそれを集めていき、自分だけの成果を持ち帰り、手元に残るような仕掛けを設けられれば、記念になるだけでなく、それをもとにもう一度学び直そうとする意欲が沸いてくるとも考えられ、仕掛けが次々につながって行って、より楽しめるのではないかと。

〔事務局からの回答〕

現時点では、展示の内容が記載され、クイズの回答が書けるようなパンフレットを作成しようとは考えていたが、

カードの作成・収集までは思いついていなかった。今後の検討材料にしていきたい。

〔委員からの意見〕

非常に意欲的なイベントになりそうで、楽しみにさせていただきたいと思う。そのうえで、以前の職場で政宗公に関連する観光地を案内していた身としては、やはり「公」は付けてほしいと思っている。特に、子供たちが呼び捨てにするのは受け容れがたく、小さい頃から「政宗公」と呼び親しんでほしいという思いがある。また、クイズの賞品の体験型コースについて、外国人の来館者が当選して閑散期にまた来館するのは難しいのではないかと。

〔事務局からの回答〕

グッズと体験を選べる形態にしているので、再来館が難しい方にはグッズを選んでもらいたいと考えている。

〔委員からの意見〕

かなり若年層を意識した展覧会のコンセプトになっているが、そうした世代に展示物の内容を理解してもらうためには、たとえばイラストやキャラクターの絵を使う、あるいはストーリーをわかりやすくして、それを理解するための絵本のようなものを設けるなど、ビジュアル的な要素を押し出す必要があるように思う。展示の中身というより、子供たちや親子連れが入りやすくなるための伝え方、語り口に関する工夫がポイントになる。

また、展覧会の内容とクイズの賞品の内容にずれがあるように感じる。たとえば、本展の内容に惹かれてきた人が、博物館の仕事がどういふものかを知る体験型コースに惹かれるだろうか。これも伝え方・語り口の問題となるが、グッズ・体験という賞品の部分も含めて一連の流れに乗せた方がよいものになるのではないかと。

〔事務局からの回答〕

イラストやキャラクターについては、どのように取り入れられるか今後あらためて検討したい。ストーリーについても、各章のテーマ設定を工夫し、全10章で伊達政宗の活躍や人柄がわかりやすく打ち出せるよう心掛けたい。展覧会の内容とグッズ・体験の内容がずれている点をご指摘のとおりであり、展覧会全体で一つのパッケージとなるよう再考したい。

〔委員からの意見〕

せっかく政宗公が現代に降臨してくる設定なのだから、現代の子供たちの生活や街の様子とどうつながっているのかがみえる内容を設けていただければと思う。また、子供たちが何度も展覧会に来て、クイズの答えを覚えて何度も賞品をもらう、申し込むということも想定されるので、応募期間を工夫するなどして、不公平感が出ない仕組みにしてみられればと思う。

〔事務局からの回答〕

1点目については、各章のテーマ設定の際に現在の仙台とのつながりがわかるような内容も盛り込めるよう考えていきたい。2点目については、そのような状況が起こりうると想定していたところもあり、応募は1人1口と限定しておくことで、同一人物が複数当選となってしまう時にその当選を1本に限定できるようにしていた。

〔委員からの意見〕

通常、歴史系の展覧会であれば、観覧者が過去にタイムスリップするように展示物を通して過去を経験し、歴史を学ぶ形を取るが、なぜ今回の展覧会では逆の設定になっているのか。その仕掛けの意図を教えてください。

〔事務局からの回答〕

これまで通りではない設定にすることで従来の展覧会との差別化を図り、多くの方々の目を引く形にできないか、という点が着想の一番大きなきっかけとなっている。

〔委員からの意見〕

クイズの賞品について、過去に実際あったものをもらうか、あるいは現代のものをもらうかで受け取り手の印象が変わってくる。ぜひ工夫していただきたい。

〔事務局からの回答〕

ご意見ありがとうございます。

〔委員からの意見〕

グッズや体験を申し込む際には紙を使うつもりであるのか。子供たちはすでにスマートフォンや QR コードなどで行うことが普通になり、その方が申し込む側にとっても便利だし、博物館としても業務の効率化につながるのではないか。

〔事務局からの回答〕

その方向で検討してまいります。

〔委員からの意見〕

伊達政宗が現代に降臨するという趣旨からすると、「私、伊達政宗からの挑戦状」という捉え方になると思うので、ここは「公」がない形でよろしいのではないか。

〔事務局からの回答〕

ご意見ありがとうございます。

③特別展「東北 珠玉の仏教絵画(仮)」(学芸企画室主任説明)

「資料6」のとおり。

〔委員からの意見〕

企画展・特別展のそれぞれの説明について、もうちょっと訴えかける伝え方や紹介の仕方をしてほしい。

〔委員からの意見〕

仏教絵画は正直なところ地味な資料である。この地味なテーマをどうやって人々に訴えかけていくのか、という部分については様々な工夫を凝らし、アピールしていく必要があるだろう。

〔事務局からの回答〕

各学芸員は、講演・講座等で通常は観客の興味を引くように説明・解説しているが、現在説明している来年度の展覧会については内容的に煮詰まっていない部分があり、アピールしきれない部分が出てきているのだと思う。今後、こうした場合でも、協議会の場でうまくアピールできるよう取り計らっていきたい。

〔委員からの意見〕

出品資料の制作時期や制作地はどのあたりになるのか。また、時代的にはどのあたりが下限となるのか。

〔事務局からの回答〕

平安時代後期に平泉で制作された経巻の見返し絵にはじまり、鎌倉・室町時代に中央で制作されたものや室町末・近世の地獄絵など、インパクトのある描写がみられる作品なども含めて、これまで仏教絵画にあまり関心なかった方でもご覧いただけるような展示を企画している。

〔委員からの意見〕

「第1章 経絵の世界」と配布資料にあるが、そこに中尊寺経は入ってくるのか。経巻を装飾する絵であれば、東北地方ならではの中尊寺経の実物はぜひ観たい。東北地方を語る上で非常に重要である。

〔事務局からの回答〕

現在、出品交渉中であるが、中尊寺経の見返し絵は出品いただきたいと考えている。

〔委員からの意見〕

東日本大震災から来年で15年目となる。祈りと未来への希望というテーマに絡めて、この展覧会に反映させる予定はないものか。また、この特別展に限らず、震災15年というテーマは仙台市博物館で取り入れる予定はないのだろうか。

〔事務局からの回答〕

震災から15年という節目の年になるため、もしかすると仙台市の他の部局でも取り上げる可能性が考えられる。この展覧会では、現在出品交渉中という部分もあるが、そういった視点も取り入れながら合致する作品が出品できれば、その点もアピールしていきたい。

〔委員からの意見〕

展覧会は、切り口によって観覧者数が全然違ってくる。地味なテーマでも、ストーリーのつくり方や見せ方でだいぶ印象が変わる。かわいい仏画を出品するとか、これまで江戸時代の仏画はそれほど注目されてこなかったもので、それを取り上げても成果になるだろうし、伊達家ゆかりの仏教美術の作品に焦点を当ててみても意欲的なものになるだろう。もっと野心的に取り組んでもよいのではないかな。

〔事務局からの回答〕

ご意見ありがとうございます。

6. その他

(1) 次回開催日程について(副館長報告・学芸普及室長報告)

「資料7」のとおり。

各委員の任期は今年度までの予定だが、今後個別にご相談申し上げる。なお、当館所蔵の「躑躅ヶ岡花見図」が宮城県指定有形文化財(絵画)に指定される運びとなった。来年度、桜の季節に当館で展示する予定である。また、閑散期に入っていく博物館でも楽しんでほしいと考え、「わくわく！冬こそ博物館」と題して当館の展示・イベント・企画をアピールしていく予定である。初の試みとなる。これにぎわいを創出できればと思う。最後に、「仙台市教育構想 2026(中間案)」に関して本日からパブリックコメントを実施しており、ご承知おきいただきたい。